

(学) 宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校  
2024年度 授業シラバス

授業科目名	動物外科看護学 I	科目コード	2401010		
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	1年
担当教員	川越 瞳				
	実務経験教員 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ) 実務経験内容 動物病院にて5年、動物の診療補助、看護に従事				
開講時期	前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・通年・特別講義・その他		授業コマ数	32 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト 1	書 名	愛玩動物看護師の教科書第 4 巻			
	著 者	編：緑書房編集部			
	出版社	株式会社緑書房			
使 用 テキスト 2	書 名	動物看護実習テキスト第 3 版			
	著 者	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会 編			
	出版社	株式会社エデュワードプレス			
参考図書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻 (エデュワードプレス)				
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他 ( )				
<p>&lt;授業の目的・目標&gt;</p> <p>外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</p>					
<p>&lt;授業の概要・授業方針&gt;</p> <p>まずは外科手術の流れを理解し、周術期の術前・術中・術後において、動物看護師がどのような役割を果たしているかを考える。外科手術に関連する器具、機材の名称や使用方法、管理法を学び、動物外科看護実習につなげる。</p>					
<p>&lt;成績基準・評価基準&gt;</p> <p>前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80~100点を優、70~79点を良、60~69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、80%を満たすまでの時間数の課題に取り組んだのちに追試験を受けることができる。追試においては60~100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。</p> <p>通年の評価は、前期と後期の本試験の点数の平均を算出し、その平均点が80~100点を優、70~79点を良、60~69点を可とする。</p>					
<p>&lt;使用問題集・注意事項&gt;</p>					

<授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他>

動物外科看護学Ⅱ

動物外科看護学実習Ⅰ、Ⅱ

授業科目名		動物外科看護学Ⅰ
2H/ 回	授 業 内 容	
1	科目概要、学習目標、 動物外科看護の基本原則、手術チームにおける動物看護師の役割、 外科手術の流れ	
2	第3章 手術器具・機材および術前の準備 術前手続きおよび術前検査、無菌操作の重要性 手術器具・機材の準備	
3	縫合糸・縫合針、代表的な歯科器具、 ドレープ・ガウン、滅菌法、	
4	術前準備／手術室の準備、動物の状態の確認、動物に対する準備、	
5	術者の準備：手術前の手洗い方法、ガウンとグローブの着用	
6	第3章 復習	
7	第4章 麻酔管理の補助 麻酔処置における愛玩動物看護師の役割、 ASA分類と麻酔リスク評価、麻酔の知識、	
8	周術期の麻酔、人工呼吸器	
9	麻酔時のモニタリング、麻酔記録の作成法について、 麻酔中の心肺停止への救急対応	
10	第5章 術中補助 手術助手に必要な一般知識、おもな手術	
11	第5章 復習 第6章 術後の管理 術後の動物看護、	
12	術後の動物看護、鎮痛薬の使用、	
13	術後の包帯法と術創・褥瘡管理、 退院時の注意点と飼い主への説明事項	
14	第6章復習	
15	まとめ	
16	//	

別紙②【「動物内科看護学実習Ⅰ」「動物臨床検査学実習Ⅰ」「動物外科看護学実習Ⅰ」「動物臨床看護学実習Ⅰ」学習成果指標】

評価要素項目		実習目標	学習成果評価基準			
			4	3	2	1
汎用的技能	自己評価の内容	実習を振り返り、身だしなみ、実習目標の達成、実習内容の理解、積極的な取り組みなどについて、客観的な自己評価を行っている。	自己評価が客観的で正しく行われており、担当教員による評価と相違ない。	自己評価は正しく行われているが、担当教員による評価とやや相違がある。	自己評価がやや主観的である。	実習後の自己評価はいつも同じで、担当教員による評価と大きく離れている。
職務上の技能	専門実践技能	実技試験60点	実技試験48点以上	実技試験42～47点	実技試験36～41点	実技試験35点以下
	対人技能	実習中の態度、身だしなみ	実習中に指導されたことは素直に実践し、態度・言動が適切である。常に実習にふさわしい身だしなみができている。	指導されたことは素直に実践している。	教員の指示どおりに行わない面があり、言動面も指導を要する。	教員の指導を素直に聞かず、反抗的な態度をとることがある。また、実習着を忘れたり、身だしなみも不適切である。
	分析技能	レポートの提出状況、内容	実習で実践した内容が細かく丁寧にまとめられており、今後の自分の課題が分析されたレポートである。毎回、遅れることなく提出している。	レポートは提出されているが、内容や今後の課題がやや不明瞭である。	期限に遅れることが多いが、提出はされている。	レポートをほとんど提出しない。
	管理・指導技能	積極性	様々なことに興味を持ち、意欲的、積極的に実習に取り組んでいる。また、わからない学生にも優しく教えることができる。	積極的に実習に取り組み、疑問に思ったことはすぐに質問解決につなげることができている。また、他の学生にも優しく教えることができる。	真面目に取り組んではいるが、積極的に動けない面がある。学生同士で教える際は、丁寧に説明できている。	やや受け身の態度で実習に取り組んでいる。他の学生への説明もやや不足している。
自律性と責任感	責任感、行動力	動物看護師になることを目標として、責任感をもって実習に取り組み、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にしている。	言われたことは最後まで責任を持ってやり遂げ、動物看護師になることを目標として、自己の成長を意識しながら、自分で考え行動できている。	動物看護師になることを目標として、自分で考えて行動しようとする姿勢は見られる。	動物看護師になることを目標とはしているが、自分の考えで行動できないことがある。	自己の職業観が曖昧なため、責任感や自律性に欠けた行動が頻繁にみられる。
倫理観とプロ意識	職業倫理の理解	職業人としての社会的なマナーや言動を意識しながら行動できる。	動物看護の倫理綱領を意識しながら、実習における目的・目標を念頭に、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	一般的な社会的・職業的倫理は理解できている。	社会人になるという意識はあるが、社会的・職業的倫理に対する関心が低い。やや理解不足である。	社会人になるという意識が低く、社会的・職業的倫理に対する関心が低い。

※評価方法

上記7項目の基準の合計点数により、以下のように評価する。

合計28点満点中 23～28点が優、20～22点が良、17～19点が可、16点以下が不可

不可の場合は、著しく評価が低い項目に合わせた課題を与え、提出されたその内容が適切な場合は可の評価を与える。